

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702685
法人名	(株)プロデュース
事業所名	グループホーム きらめき (ユニット名 2階)
所在地	福岡県北九州市八幡西区本城東1丁目11-27
自己評価作成日	令和2年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和2年2月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営理念である「明るい挨拶元気な会社」をめざし、スタッフ一同、毎朝笑顔で元気に利用者様への挨拶から始まります。笑顔で声かけを行い利用者様のその時その時の気持ちを汲み取り、また健康状態なども把握して、お一人お一人に寄り添い向き合って支援をさせて頂いております。20代～70代のスタッフまで年齢層が幅広く、その分色々な観点から利用者様への気づきがあり、意見を出し合い、利用者様が笑顔で暮らして頂けるようスタッフ一丸となり、生きがいある生活のお手伝いをさせて頂いております。生活に必要なサービスはもちろん、季節や気候に応じたレクリエーションの機会も多く設けております。また、医療面でも協力機関と連携を取り日々穏やかに過ごされます様、健康や服薬管理も万全です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近くには市場や商店街、市営の高層団地、商業施設があり、鉄筋造り3階建ての2・3階部分にグループホームがある。事業所内は落ち着いた雰囲気で見守りがある。平成30年度に市より「ワークライフバランス表彰」を受け、子連れ出勤も可能な職場であり、将来子供が生まれても安心して勤務できる体制づくりが出来ている。長年勤務している職員も複数いて働きやすく、職員は笑顔で利用者の気持ちに寄り添いながら日々利用者様に接している。地域の高齢者や障がい者も生き生きと働くことができる活躍の場となっている。利用者に対する近隣の理解もあり、声掛け、見守り、連絡などをしてもらえる関係性が築かれている。地域に根差した福祉の拠点として、今後益々期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全事業所の管理者で行う管理者会議や事業所全職員参加の運営会議・各ユニットのユニット会議の時に参加職員全員で理念を唱和し意識を高めている。理念及び理念を具体化したスローガンを各ユニットのリビングに提示している。	法人の経営理念を基に、管理者・職員で話し合い、毎年新たな事業所独自のスローガンを作っている。職員は日々の関わりの中で笑顔を中心掛け、利用者の気持ちに寄り添いながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市民センターにて行われているふれあい昼食交流会に毎月参加し地域の方々と交流している。運営推進会議にて地域の自治会長や地域の方に参加して頂き常に地域の方たちとの交流を行っている。	町内会に加入している。地域の民生委員を兼ねた職員がおり、町内の会合に出席したり、職員を通じて情報を貰ったりしている。また、地域の市民センターの文化祭に利用者と職員と一緒に観に行ったり、専門学校の海外留学生の実習も受け入れている。近隣住民から品物の差し入れもあるなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症についての理解を深めるために勉強会を行ったり、ご家族様に認知症の利用者様の歴史やご家族としての実体験などの話をして頂き、他の参加者に共有して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設運営状況や空き部屋の情報及び利用者様の日常生活の様子などの報告をしている。またきらめき・地域包括・ご家族・自治区の方々の参加による防火・防災訓練も行っている。認知症の方々への対応の仕方など家族様の体験談なども盛り込み地域の方々にも理解して頂くよう認知症の勉強会も行っている。	会議の前半部分で防災訓練を実施し、引き続き参加メンバーによる話し合いが行われている。自己評価・外部評価、ヒヤリハットなどの報告をしている。消防署員より訓練時のコメントやアドバイスを貰ったり、他の参加メンバーより避難誘導時の声掛けが聞き取りにくいなどの意見が出てサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの担当者にも参加して頂いており、協力関係を築くようにしている。	生活保護受給者の入所に関する対応について相談したことがある。その際、事業所、家族、市職員で話し合い、協力関係を築きながら取り組んだ事例がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯は玄関を施錠しているが、日中は玄関を解放している。身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に社内勉強会などを実施している。	法人の勉強会に身体拘束廃止委員が参加し、月一回の運営会議で伝達研修をしている。近隣住民は利用者の顔も知っており、声掛け、見守り、連絡等の関係性が築けている。利用者の様子に変化が見られる場合は、職員は話をしたり、外と一緒に散歩するなど気持ちが落ち着くように対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会による会議の場にて議題を挙げるなどし、互いに意識して注意し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は勉強会にて学ぶ機会を持ち、会議などで意見や提案を出し合うようにしている。	1名の利用者が制度を利用している。月に一度の運営会議で管理者が講師となり、職員は制度について学んでいる。今迄に制度についての相談はなく、必要時は管理者が対応予定である。パンフレットなどの準備はなく、職員の制度についての理解が十分とは言い難い。	家族への情報提供の為に資料などの準備や関連機関との連携、職員の研修の機会の確保など制度理解や活用に向けての支援体制づくりが望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際はご家族やご本人に見学して頂き、ご説明をしている。ご理解・納得をして頂いたうえで契約をして頂いている。センター方式を活用しご本人の生活状況等を聞き取るようにし、ご意見・ご要望をお聞きしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、ご家族様のご意見やご要望をお聞きし、改善すべきところは速やかに改善をするように努めている。	運営推進会議の参加メンバーである家族から、認知症の対応方法についての意見がでて、管理者・職員が講師となり、推進会議の中で、勉強会が行われた。参加家族から理解が出来たと喜ばれている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回の個人面談を行い、またストレスチェック等のアンケートなども使用し意見を出しやすいようにしている。月に1回の運営会議や各ユニット会議などでも職員の意見・要望・提案を聞き、改善の必要性のあるところから改善をしている。	法人代表や管理者は年に数回、職員の意見や悩み、話を聞く機会を設けており、職員のストレス軽減の機会となっている。様々な利用者に対応出来るシャワーチェアや褥瘡を治す為の工夫などの意見が職員より出て改善されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の管理者会議を開催しその時点での管理者や職員の状況などを把握するようにしている。時間を作り面談や相談を行い職場環境や労働条件の向上に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員には20歳代から70歳代の高齢者がおり、個々の能力を発揮しながら互いに良いところを認め合い、補い合っ利用者に対応できるよう配慮している。	採用時に性別・年齢等の制限はなく、希望休暇など取りやすい。調理や季節行事、レクリエーションなどの計画づくりや体操など職員個々の能力が発揮出来ている。将来子供が生まれても、子連れ出勤が可能な職場であり、安心して勤務できる体制が整っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	身体拘束や虐待、認知症についてなど人権に関する勉強会や研修を通じ相手の人権を認め、その人らしさを受け入れることの必要性を学んでいる。利用者の人権を尊重し、謙虚と感謝の気持ちでケアに取り組んでいる。	月に一度の運営会議で管理者が講師となり、全職員が人権について学んでいる。相応しくない対応がある場合には、管理者がその都度話をしたり、何度も繰り返す場合には、個人面談を行い、職員が理解できるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師を招いて研修会などを実施。また認知症についての勉強会を行っている。働きやすい場作りが出来ている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	徘徊ネットワークやグループホーム協議会、介護に関するNPOや共同組合などに参加し、同業者などとの交流および情報交換をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に入居希望者のご家族様等に困り事や不安・要望をお聞きして安心して頂けるよう努めている。センター方式の活用が信頼関係の構築に役立っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様の困り事や不安・要望をお聞きし、コミュニケーションを取るようになっている。フェイスシートの情報を把握し関係を作っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に把握できた本人やご家族の不安を解消し、その要望に応えるようになっている。センター方式によって得られた情報を活用してケアをするように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることも苦手なことも把握するように努め、出来ることはご自身で行って頂くようになっている。感謝の言葉を忘れず、共に喜び合える信頼関係を築けるよう努める。簡単な作業を一緒に行う。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回「きらめき便り」の発行や「家族通信」などの手紙をご家族様へ郵送し近況報告を行っている。また、ご家族様の相談事などについても親身に応じている。運営推進会議などの行事にもご家族に参加して頂けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣地のスーパーやコンビニ、公園などへ出かけている。昔、顔なじみの知人が面会に来られている。	来訪者の訪問時間の制限はなく、いつでも対応出来るようにしている。馴染みの人や場所についての把握は家族や記録物から情報を把握している。利用者・家族の外出の際には準備を支援したり、知人の訪問にはお茶を出すなど歓待している。馴染みの理美容室には管理者が同行するなど、これまでの関係が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作業やカラオケ等で関わりあえる場所づくりが出来ている。レクレーションを行うことによって互いの親睦を深められるようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者のご家族様が訪ねられて来られることもあり必要に応じて電話による相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の望む暮らしに添えるように希望や意向は必ずお聞きしている。意思疎通の難しい利用者についてはご家族様に情報を提供して頂きご本人が望まれるであろう生活に近づけるようにしている。	入居時に思いや意向を聞き取り、本人が思いを発することが出来ない時は家族より聞き取りシートに記録し、職員全員が共有している。入居後は日常的なかかわりの中から聞き取ったり、入浴時1対1になった時に自然な会話の中から聞き取っている。また表出出来ない方は表情や仕草から読み取り、連絡ノートに記録し本人の思いに寄り添うように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様にセンター式により情報を頂き本人の意向を把握して共有するようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の起床時、食事中、入浴中等、観察を行っている。毎月のカンファレンスで現在の状況把握を行うようにし支援の在り方を検討している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニット会議にてカンファレンスを行い計画に反映している。モニタリングを行い意見を出し合っケア方針を検討した上で実践することを心掛けている。	日常の関わりの中で本人の思いや意向を把握、確認し連絡ノートに記載している。利用者の各担当職員が計画作成担当者に気づきを伝え、家族の訪問時に意向を聞き取り、医師・訪問看護師・薬剤師には訪問日に意見を聞いている。モニタリング・評価内容を原案に反映し、ユニット会議で検討している。状態変化時にはその都度話し合い、現状に即した対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化はご家族へ報告し相談後、計画に反映させケアを行っている。ご家族にいつでも記録を見て頂くよう掲示している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のご家族の状況や本人の状況に合わせて支援を行っている。スタッフとの話し合いなどで対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のふれあい昼食会に参加させて頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	数名のご家族様・ご本人様のご希望にそったきらめきの主治医ではない他の病院へ受診されている。	数名の利用者が入居前からのかかりつけ医を継続している。基本的には通院同行は家族が行い、その際、事業所での情報を家族に持って行ってもらっている。また、受診結果は家族から聞き取り共有している。整形外科・皮膚科・耳鼻科は管理者が受診同行している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問や電話対応で支援して頂いている。変化のある方は申し送りを徹底し支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを提供している。症状が安定したら早期退院をお願いしている。退院時のカンファレンスにご家族と参加し情報交換を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様・医師・訪看と密に情報交換し状態の変化が有るときはその都度、意向を確認し、満足して頂ける終末期を迎えられるよう支援している。	入居時に看取り同意書は取っていないが説明をしている。時期が来た時は確認し同意書を交している。家族や医師等とその都度相談しながら柔軟に対応している。家族の希望があれば簡易ベットを置いて宿泊の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの操作などの勉強会・講習会を定期的に行っている。起こりうる事故や急変時は職員に伝え対応の手順を再確認している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防の方に指導して頂き火災訓練・避難訓練・防災訓練等行っている。	年に2回、運営推進会議出席者と一緒に消防署立ち合いの上消防訓練を行っている。運営推進会議には地域住民も数名出席している。昨年4月と12月に行い日中・夜間想定で通報・避難・消火訓練等を行った。職員は火災時・水害時の避難場所の把握ができていた。マニュアルは現在作成中である。備蓄は見直しが終わりに、必要物資を購入予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声掛けをしている。自尊心を傷つけない様配慮し言葉使いに注意するように指導している。	排泄の声掛けは言葉に配慮したり、パット類は他の利用者の目に触れないようにトイレに保管している。記録は見守りをしながらリビングで行っており、席を立つときは裏に返したりし目に触れないように配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ時の飲み物や行事の参加・衣類の更衣など自己決定できるよう声掛けをしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室にてテレビを観られる方、廊下ソファでおしゃべりを楽しまれる方、など個々にその時その時・一人一人のスペースを大事にしてその人らしい暮らしを大切にしよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に合わせて行っている。施設内に定期的に来られる訪問カットではなく個別に理容院への希望のある方には2ヶ月に1回お連れしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で食べたい物があるときは献立に反映している。その時の状況に合わせて、出来ることを共に行っている。下膳・お盆拭き等を一緒に楽しく行っている。	食事は配食サービスを利用しており、ご飯、味噌汁とおかず一品は事業所で作っている。利用者には何が食べたいか尋ね取り入れるようにしている。お正月やクリスマス等の行事食は事業所で作っている。利用者はテーブルやお盆を拭いたり、下膳を手伝うなど利用者の能力に合わせて職員と一緒にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分摂取量をチェックし状態を把握し対応している。自力での摂取を支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ、個々に応じた口腔ケア、見守りを行っている。困難なご利用者様にはスタッフが介助を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄・排便チェック表にてパターンを把握しトイレで排泄が出来るように援助している。歩行困難なご利用者様には声かけ誘導にて介助を行っている。自尊心を損なわない様さりげなく援助している。	自立支援に向けて排泄チェック表を利用し、排泄パターンを掴んで声掛けをしている。入居当時、リハビリパンツで失禁も多く布団も濡れることが多かったが、布パンツに変更し布団もほとんど濡れることがなくなった事例がある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握や運動と毎朝のバナナ入りヨーグルトなど工夫し自然排便できるように援助している。医師のもと下剤内服の調整管理を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1対1の援助でゆっくりと入浴して頂いている。臨機応変に希望のあるときは対応している。	週2回、主に午前中に入浴を行っている。皮膚疾患がある場合等は毎日入浴をしたり本人の希望があれば臨機応変に対応している。入浴を拒まれる場合は職員を変更したり支援している。シャンプー・リンス・石鹸・ボディソープ等好みに合わせている。皮膚の弱い利用者にはガーゼタオルを使用したり、泡をたて手で洗身している。ゆず湯等楽しむこともある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日睡眠時間や状態を把握し対応している。病状や年齢、習慣によって日中でもゆっくり休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一覧表や薬手帳で確認できるようにしている。新しく処方された薬があるときは必ず申し送っている。スタッフ全員、お一人お一人の内服状態などの理解と確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に1回の音楽療法や塗り絵、歌、おやつ、飲み物の選択などご本人の嗜好を考慮して支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺に散歩にお連れしたりまた、近くのスーパーマーケットに職員と一緒に買い物に行っている。	最近ではコロナウイルスの関係で外出が出来ていないが、利用者の体調をみながら、気候の良い時は週3~4回、一回に2~3人位、順番に近くの公園に散歩に行っている。車が出せる時は河川敷まで菜の花を見に行ったりしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は利用者様には常にはお金は持って頂かず、立替払いとしているが買物の時にお渡しすることもある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人とご家族の希望があればいつでも電話できる体制にある。利用者様自身が携帯を持たれ自由にご家族に連絡を取られている方もいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭がなく玄関も狭い為、リビングには毎月季節に応じて季節を感じられるよう花や壁面に飾りつけをし利用者へ毎月楽しみにされている。	リビングや廊下には絵を飾ったり、居室の入り口に職員手作りの暖簾を下げたりと家庭的な雰囲気が漂っている。廊下にはソファを配置し、寛げる空間もつくるように配慮がなされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングにソファを設置し、自由に過ごされる空間がある。気の合ったご利用者様同士、一緒に座られゆっくり寛がれたり話をされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのタンスや鏡台、写真などを持って来られご本人が気持ちよく過ごせるように努めている。	居室には馴染みの筆筒や椅子を置いたり、家族の写真や手紙が飾ったり、大きな仏壇を置くなど、一人ひとりが思い思いに居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせその時その時の状況を把握し過剰な介護はせず支援している。出来ることの発見や見守ることで出来るようになるよう支援している。自分の部屋とわかる配慮に心掛けている。		